

第40回中等教育機関日本語教師研修会

入門期から『意味のある』 発話をしよう

少ない学習項目で、多くのことを
話すためのシラバスとは？

川瀬佐恵 (交流協会台北事務所)

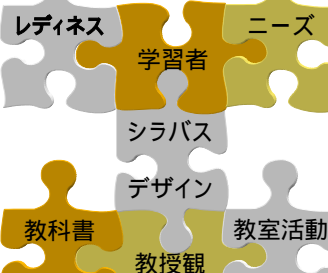
本研修の目標

カリキュラムとシラバスの関係がわかる
シラバスデザインに必要な作業がわかる
シラバスの種類がわかる
学習者にあった複合シラバスが考えられる
シラバスを補う『意味のある発話』ができる
教材や教室活動について考える

研修の流れ

コースデザインとシラバス・デザイン
シラバス実践例報告
意味のある発話を促す教室活動例
グループワーク(シラバスを考えよう)

研修のキーワード



自分自身を知ろう 参加者をお互いに知ろう

- 教授観(ピリーフ) 学習観 とは？

では、グループのメンバーの共通点や
違うところを知りましょう！

(はい・いいえ・わからない)

授業中、学習者の誤りはすぐ直さなければなら
ない。
教師は授業でくわしい文法説明をする必要があ
る。
学習者には正確さを求めなければならない。
外国語学習の中で一番大切なのは文法の学習
だ。
教科書や教材は外国語の授業に必要なだ。
教科書に書いてあることは全て教えなければなら
ない。
外国語学習では、たくさん読ませたり書かせたり
することが重要だ。

研修でのことばの意味

外国語学習の目標は？
 生活、研究、仕事的手段？
 自己実現？
 コミュニケーションとは？
 意志の伝達？

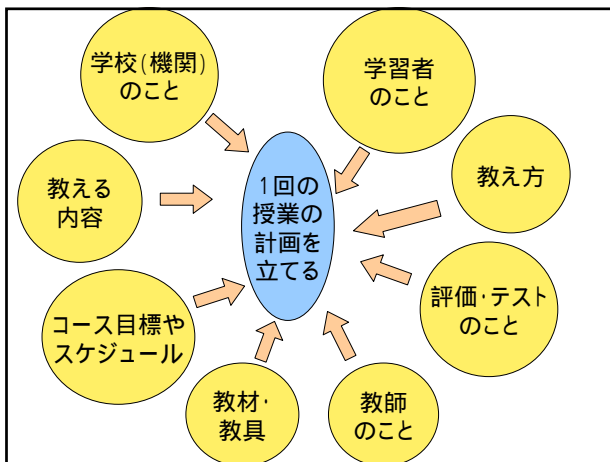
社会性を養うためのもの
 (人間関係の構築 自己開示と他者への関心)
 意味のある発話とは？

意味のある発話とは？

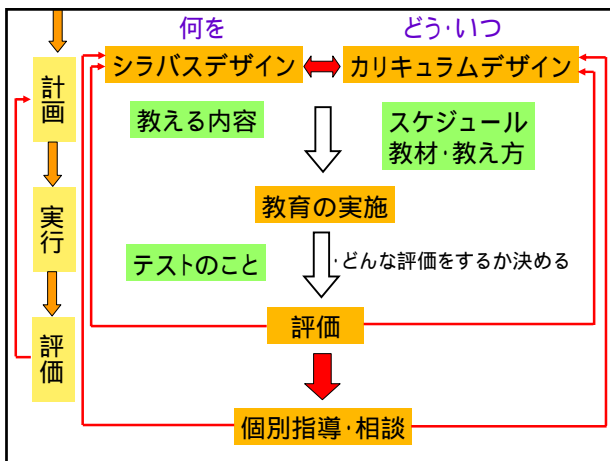
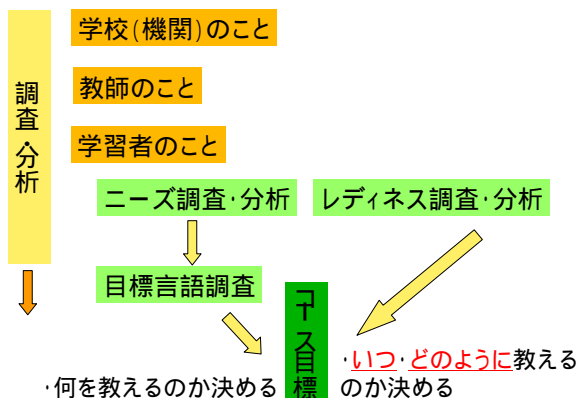
答えが初めからわかっていないこと
 学習者の既存の知識が活性化されること
 自分の知っていることが発話内容であること
 インフォメーションギャップがあること

教師の仕事

• 1回の授業の計画を立てるために、教師が理解したり考えたりしておかなければならないことは何ですか？



コースデザインの流れ



シラバスとカリキュラム

- **シラバス・デザイン**
ニーズや目標にあった教える内容の選択
- **カリキュラム・デザイン**
シラバスをどう学習者に教えるか
シラバスの項目の取捨選択・順序づけなどの整理を行い、教えるための具体的な活動を計画する



学習者を知ろう

- **ニーズ調査**
(学習したいことは何か)
学習目標の決定
- **レディネス調査**(外国語学習の学習観)
(学習者にできることは何か)
学習者の学習方法を知る
- **教授方法の決定**



教える内容を考える

- **シラバスとは?**
教える内容を並べたリストのようなもの
- **コースシラバス**
コース全体の学習項目のリスト



シラバスの種類(1)

- **文型シラバス**
文型を中心に学習項目を並べたもの
- **機能シラバス**
「機能」を中心に学習項目を並べたもの



シラバスの種類(2)

- **場面シラバス**
場面を中心に学習項目を並べたもの
- **話題シラバス**
話題(トピック)の点から分類したシラバスのこと
- **技能シラバス**
4技能をさらに具体的に細かく分類した技能を学習項目として並べたもの



教科書の目次とシラバス

(場面)シラバス 第1課 教室で 第2課 学生食堂で 第3課 図書館で 第4課 駅で 第5課 郵便局で	(機能)シラバス 第1課 自己紹介 第2課 質問する 第3課 依頼する 第4課 誘う 第5課 謝る
(話題)シラバス 第1課 学校 第2課 私の家族 第3課 食べ物 第4課 好きなこと 第5課 ファッション	(技能)シラバス 第1課 メモのとり方 第2課 カードの書き方 第3課 メールの書き方 第4課 友達への手紙の書き方 第5課 先生への手紙の書き方

教科書の目次とシラバス

(**文型**)シラバス

- 第1課 わたしは学生です。
田中さんは先生ではありません。
- 第2課 わたしは7時に起きます。
わたしはきのう10時に寝ました。
- 第3課 わたしは東京へ行きます。
林さんはきのう台北へ帰りました。

機能シラバス

「**機能**」とは？

ことばを使って何かの目的を達成すること

「機能」 依頼する・命令する・誘う・・・

機能で使われる表現を考えて、学習項目に含める

(例)「誘う」 どんな表現？

場面シラバス

場面中心に考える

「レストラン」「デパート」「郵便局」・・・

(例)「レストラン」

メニューの内容、料理や材料の名前、
数や値段などの**語彙**、

「注文する」「料理の内容をたずねる」などの
言語行動 (**機能**)、

日本のレストランの習慣 (**文化的項目**)

話題シラバス

話題(トピック)から分類する

●初級の場合

「家族」「趣味」「学校」のような**身近な話題**

●中級、上級の場合

「教育」「環境」「健康」など**一般的で社会性**
のある、または**抽象的**な話題

技能シラバス

読む・書く・話す・聞くの4技能をさらに具体的に
に細かく分類する

(例) **読む**

「看板を読む」「メニューを読む」「手紙を読む」・・・

(例)「**広告を読む**」

「**全体を理解する**」「商品名・値段・会社名などの
必要な情報を読み取る」「**詳しい内容**を理解する」

読む目的によって技能は異なる

活動 各シラバスの特色

	よい点	欠点	向いている学習者
文型シラバス			
機能シラバス			
場面シラバス			
話題シラバス			
技能シラバス			

シラバスにおける共通点

シラバスの種類が違ってても、学習項目を細かく考えるときには、以下の点について、いつも考えなければなりません。

言語行動・機能

語彙

文型・表現

その他(文化的背景・待遇表現・場面・・・)



学習者に最適なシラバスは？

文型？

機能？

場面？

話題？

技能？



教科書のシラバスは？

『みんなの日本語』・『新文化初級日本語』

『げんき』(台湾未出版)

●台湾で出版されている教科書

『初級日語』『e世代日本語』『聴聴説学日語』

●年少者向けに出版されている教科書

『にほんごかんたん』『中学生・高校生の日本語』

●海外で出版されている教科書

“YOOKOSO!” “Nakama” “Obentoo” “Kimono”



複合シラバス

▶学習者に100%あう教科書(シラバス)はある？

ない！

では、どうしますか？

▶色々なシラバスを組み合わせよう。

(例)『みんなの日本語』を使ってるなら？

他にどんなシラバスと組み合わせますか？

どのように組み合わせますか？



活動 コミュニケーション活動

▶『みんなの日本語1』学習項目の1課から4課まで見て、最終目標として考えられるコミュニケーション活動を考えてみてください。

	最終目標として考えられる コミュニケーション活動
1課	(例)自己紹介
2課	
3課	
4課	



コミュニケーション活動

1課

•自己紹介

•パーティーなどで自分の友人や同僚を他の人に紹介する

2課

•みやげ物について説明する

•物の持ち主を説明する



コミュニケーション活動

3課

- 場所の名前をたずねる・教える
- 学校に見学に来たお客さんを案内する

4課

- 一日の予定を説明する
- 過去の行動を説明する(事情聴取に答える)
- 時間をたずねる・時間を教える



皆さんの学習者はどんな学習者？

- 将来、日本語の研究をする？
- 日本に行く機会はある？
- 日本で生活することは？
- 日本人と経済について話し合う？
- 日本語で新聞を読む？
- そもそも、教室外で日本語を使うの？



活動 学習者のニーズは？

みなさんの学習者のニーズは何ですか？

(どんなことを日本語で話したいと思っているのでしょうか？)

みなさんの学習者の日本語の接触場面は？

(先生？知り合いの日本人？……？)

みなさんの学習者の**必要(使用)頻度の高い**表現や語彙って？



シラバス実践例の紹介

ポーランド・イギリスで使ったシラバス

機関: 大学

対象: 18歳以上の学生・社会人・教員

学習時間: 週1時間半～2時間

コース期間: 半年

学習者の目的: 日本への興味

評価: 期末試験(単位取得は無し)



実践例のシラバスの前提

学習者の日本語の使う機会は非常に少ない
日本に行けるチャンスは生涯であるかどうか？
学習動機は「日本」への興味・関心
レディネス: 適切な教科書が入手困難

シラバス = 「話題」
(学習項目)

- (1) 自分について言うための様々な表現
- (2) 教師との会話での頻度の高い表現



シラバス
(資料6) →

シラバス実践例の問題点

- 体系的な文法紹介が比較的遅い時期になる
- 形容詞の反対語を使う場合、否定形を名詞否定文の一般化を行って、誤用を招きやすかった
- お互いについて聞くという活動が多くなるため、自己開示が苦手な学習者には向いていなかった



市販教材で工夫する

- 提案：市販教材を使っている

仮名導入の際に、教科書には入らず、「好き・できる」などの自分を表現する項目を紹介する

便利な表現として、頻度の高い語彙は教科書の後のページに出ている、どんどん紹介する（何課の項目か伝えること！）



副教材

- 完璧な教科書はないことがわかりました。その場合、色々な複数のシラバスを組み合わせることもわかりました。
- では、そのためには何が必要でしょうか？

副教材

（教室活動のためのプリント・教具）



教室活動例

- 意味のある発話にするための教室活動

ひらがなの導入

（折り紙を使って語彙を学ぶ）

「ここ・そこ・あそこ」場所を聞く

出身（　人）・年齢などを聞く

数字の練習：値段を言う・聞く

どこの物が聞く：「どこの（名詞）ですか」



活動 シラバスを考えよう！

対象者を決めてください

中心となるシラバスを決めてください

学習項目を決めてください

提出順序を決めてください



どのシラバスがいい？

- 他のグループのシラバスを見てみましょう！

自分のシラバスと比べましょう！

真似したいところはありましたか？

- 自分のグループに戻りましょう

違いを話し合きましょう

直したい部分があったら、直しましょう



振り返り

- グループの人と今日の活動を振り返りましょう。

感想

今後、実践しようと思った部分

その他・・・

- 全体で共有したほうが良い質問や意見はありましたか？



参考文献

- 田中望(1988)『日本語教育の方法』大修館
岡崎敏雄(1989)『日本語教育の教材』アルク
日本語教育学会編(1991)『日本語教育機関における
コース・デザイン』凡人社
田中望、斉藤里美(1993)『日本語教育の理論と実践』
大修館
高見澤孟(1996)『はじめての日本語教育2』アスク
国際交流基金(2007)『日本語教師の役割／コースデ
ザイン』ひつじ書房

